

## 1993 年度上半期報告

### 1. 個人山行 (越後駒ヶ岳) 5月1～4日 参加・寺島、古瀬、淵沢

5月1日(土、快晴) 六日町→三国川ダム→十字峡 8:30 → 栃の木橋 9:50、発 10:05→鉄砲平 10:40→丹後山 15:15

ゲートが閉まっていたためタクシーはダムの事務所横でおろされ右岸道路に行く。十字峡からの林道は雪がかなり残っていた。雪は右の山側から左の沢側へ落ちる様についていて、さながら雪の斜面をトラバースしているような感じだった。林道途中で雪の状態が悪いところがあり、沢に落ちるのが怖くてアイゼンを付けた。栃の木橋からは雪のついた急坂を登って稜線に出る。稜線はくるぶし程度の雪でアイゼン無しで丹後山まで行けた。避難小屋は開いていたけれども天気が良いのでテントを張る。

5月2日(日、吹雪)

前夜半から吹雪。視界が無く強風だったため沈殿。10時頃避難小屋に移動。

5月3日(月、吹雪)

朝から昨日と同じ天気。沈殿とする。午後になっていくぶん回復する。

5月4日(火、晴れ) 出発 6:15 → 兎岳 7:05→中ノ岳 9:15、発 9:35→天狗平 12:30→駒ヶ岳 14:00、発 14:20→小倉山 15:00、発 15:15 → 駒の湯

晴天のもと出発する。稜線はクラストしていて気持ちよく進める。中の岳への登りで一ヶ所ルートのとりのようでは雪崩か雪庇崩壊が恐いかなと言うところがあったが稜線に忠実に進む。中の岳の頂上では、この日が最終下山日だったのでまっすぐ十字峡に降りるか、それとも駒ヶ岳に行くかの判断を迫られた。しかし、日没までには下山できそうだったので駒ヶ岳に行くこととする。檜廊下では、登りをはしろうとして山腹をトラバースしていると猛烈なヤブこぎとなり逆に疲労が増してしまった。途中から稜線に出たが崩れんばかりの雪庇や、ぐちゃぐちゃの夏道などでこちらも疲労することには変わらなかった。途中、野生の日本かもしかを見ることができた。越後駒ヶ岳からの下りにはスキューのシュプールがたくさん付いていた。ここから駒の湯までは下りだけなのだが、3人とも著しく疲労していたため、のろいペースで到着。結局この日は夜行で帰京(文責 寺島)。

### 2. 新人山行 (ナメラ沢 笛吹川久渡沢) 5月8～9日 参加・寺島、古瀬、安田(幻の新入部員)

5月8日(快晴) ナメラ沢出合

5月9日(快晴) 出発 7:40→中の沢出合 8:05→二俣 9:20→破風山 11:30、発 12:10→雁坂嶺 13:10、発 13:50→久渡沢橋 15:25

朝からどんよりとした天気。沢は予想以上に簡単だった。ほとんど滝らしい滝も無く、最初の5mの滝を左側から難無く通過した後は、ナメの小滝があるだけ、ザイルも不要。源頭からは残雪が現れ、溪流足袋だけの素足には辛い。苔むしたひっそりとした斜面なので雰囲気は良い。1年生の安田はナメで何回か足を滑らせていたが遅れることも無く元気良く歩く。少しのヤブこぎで稜線に出る。山頂でミカンをほおぼり記念撮影。稜線にはかなり雪が残っていて運動靴では非常に滑る。特に安田は何度も尻もちをつきやや疲れが見え始める。しかし、峠からは雪も無く、再び元気を取り戻し、予定よりかなり早く久渡沢橋に着いた(文責 淵沢)。

### 3. キュウハ沢 6月19日 参加・楊、田形、古瀬、淵沢、和田

6月19日(快晴のち曇)国立発5:00→塩水橋9:00→遡行開始10:20→大滝下11:30→3連瀑下13:00→丹沢山15:30、発15:40→塩水橋17:10

田形の車で出発。ガスっている上時折ぼつぼつと雨が当たる。皆あまり乗り気ではないがとにかく遡行を開始する。

手ごわい滝は巻いたのでほとんどザイルは使わなかったが途中5mほどのシャークライムで沢が2度落下、ザイルを出す。

休憩の時、楊がヒルに食われた足を見せ、皆いやな気分になる。塩水橋に戻った時には全員数ヶ所にヒルを付けていた。

源頭近くから雨が強くなりだし、丹沢山頂ではドシャ降り。小屋の庇や木の下でしばらく雨宿りした後急いで下山する(文責 沢沢)。

#### 4. 文部省登山研修会(雪上技術訓練 剣沢定着) 5月23~27日 参加・寺島、沢沢、古瀬

5月23日(晴れ) 室堂発12:24→雷鳥沢入口12:58→テン場15:57

講師と班員の打ち合わせの後室堂へ。行動は班単位。食糧は豊富だがほとんどの共同装備は先に荷揚げしてくれていたのが楽だった。我々はテントではなく前の人掘った雪洞に泊まることになった。

5月24日(快晴後晴れ)

アイゼン歩行、滑落停止、グリセードの練習をした後、耐風姿勢を繰り返しながら一旦小屋に戻る。昼食をとった後確保練習。山岳部で習ったのとはやり方が少し違う。教え方は丁寧でいろいろとポイントを指摘してくれる。

5月25日(晴れ後快晴) 出発6:30→一服剣への尾根13:00→一服剣16:10→テン場16:55

スタカットで別山山頂直下まで登り、稜線上でタイトロープビレイの練習をする。小屋に戻って確保理論の講義を聴く。質問にはきちんと答えてくれるが基本的な確保の問題点をおさえておけば十分と言う気がした。数式の羅列ではあまりイメージが湧かない。

5月26日(快晴)

朝ガスが濃いので出発を遅らせる。きれいに晴れてからベースキャンプを後にする。武蔵谷に向かう途中1度ザイルを出す。7班と合同で行動したので非常に時間がかかった。一服剣からの尾根に着き昼食。その後我々の班はそのまま尾根を直登し、10回以上スタカットを繰り返し一服剣に登る。一方7班は雪渓をトラバースして前剣へ。

一服剣の尾根は急で、途中岩にハイマツが密生した壁にぶつかり乗り越えるのに一苦労する。ピーク直下の岩をノーザイルで楽に越え、一服剣に着く。別山尾根をあっという間に下り、休む間もなく医療の講義。登山のベテランとは言え医者ではないので、期待していたほど有用な話は聞けなかった。

5月27日(晴れ)

汗ばむほどの天気。雷鳥沢の途中で自己脱出の方法とザイルを使った搬送の仕方を教わった。自己脱出の方法は先生によってまちまちで、ランニングをとった時、とらなかった時でやり方が少し変わるのでややこしい。ランニングをとった場合は力のかかり方が逆になるので山岳部の雪訓にも取り入れるべきだろう。

講師は優秀で教え方も実に丁寧で詳しかった。他大学の様子も聞けたし、大変有意義である(文責 沢沢)

## 5. 悪沢 7月4日 参加・古瀬、田形、沢沢

7月4日(曇り) 出合 10:45→遡行終了 14:55→車道 18:10

古瀬、沢沢ともに松田駅に遅れ、遡行開始は11時と大幅に遅れる。これからはこういうことは絶対にやめてもらいたい。

最初の20mの滝は古瀬がトップで右側を登る。残置ピトンやシュリングがあるが濡れていて登りにくい。その後は大きな滝は巻きながら進む。最後の25m大滝では沢沢にトップをやってもらい無難にこなす。源頭付近の二俣では他パーティーは右を、我々は左を選んだ。これは我々が正しかった。と言うのも、右に行ったパーティーは突き上げた尾根を降りたらしいのだがかなりヤブこぎをしたらしい(帰りのバスで会う)。しかし、我々も似たようなものだった。尾根に出てから、びょうぶ岩山の方に行く途中で、大滝沢の分岐があったのでそちらを降りたのだが途中からヤブこぎになってしまった。これは忠実に大滝峠方面から降りるべきであったろう。沢自体はまともっていて楽しかった(文責 田形)

## 6. 個人山行(小常木谷) 7月23日 参加・古瀬、古田

7月23日(曇り)

余慶橋で丹波川に降り、本流を出合まで大遡行する。出合いはうっそうとしたゴルジュ。スケールの大きさを予感させる。深い緑が印象的。水はかなり多く、初めの3m滝は左から巻く。結構滑っているのと倒木が多いのが気にかかるが、全体的に滝は手ごたえのある登りが楽しめる。18m大滝では左壁最上部のホールが細かく、トップの古田さんは恐い思いをして抜けたと言う。ザイルはここと、8mネジレの滝で右から行って行き詰まった古瀬に上から出した所の2ヶ所。つめは藪無し。稜線上の踏み跡をたどって登山道に出、丹波へ戻る。丹波からは異様にヒッチハイクしづらかった(文責 古瀬)。

## 7. プレ夏合宿(甲斐駒ヶ岳) 7月31日~8月2日 参加・寺島、古瀬、田形、沢沢

7月31日(土、雨) 日野春→竹宇駒ヶ岳神社→五合目→白稜の岩小屋

タクシーで竹宇駒ヶ岳神社まで入り、黙々と黒戸尾根を登る。途中、台風の影響で雨が激しく降り始め、アメリカから帰国して初めての重荷の山行のZは体調を崩し苦しそうだった。翌日尾白川の遡行を予定していたのでこの日は岩小屋泊り。

8月1日(日) 岩小屋→五合目→甲斐駒ヶ岳→鋸 六合岩小屋

一応晴れているが昨夜はずっと雨が降っていたこと、Zの調子が今一つだったためこの日の尾白川遡行は断念し、甲斐駒ヶ岳頂上に登って直接、今山行のもう一つの目標であった鋸岳縦走に向かうこととする。甲斐駒ヶ岳頂上から六合石室までは、針金を伝って降りるところが悪いほかは特に問題無く達することができる。水場は縦走路と石室の分岐を布印のとおり10分ほど下った所にある。

8月2日(月) 岩小屋→第二高点→中ノ川乗越→戸台川→戸台

ちとつとした空気の中を中ノ川乗越までかなりのペースで進む。ここから第二高点へ登りは、見た目には悪そうなガレだが、実際はそれほど悪くない。着いたところで急にガスに巻かれる。確実を期するためにガスの晴れるのをしばらく待つ。晴れたので先に進むがZの調子が今一つだったのと、バンドのトラバースが予想以上に微妙なバランスが要求されるものだったので、引き返すことに決定。中ノ川乗越に戻り、そこから、岩の転がっている道を戸台川に下る。鋸岳の縦走ができなかったことにより、夏合宿で計画されていた剣岳源次郎尾根は中止となった。

**8. 夏合宿（剣沢～赤木沢～穂高） 8月6～19日 参加・寺島（4）、古瀬（3）、田形（4）、湊沢（2）**

8月5日 上野発

OB4人に見送られて「能登」で出発。

8月6日 富山→立山→室堂 9:35（晴れ）→剣御前小屋 12:15（ガス）→剣沢 12:35

室堂BYで4人荷物を計ったところ、寺島のザックが田形、古瀬のより6kgも重い。不満げな寺島ではあったが、他の3人はお構いなしに観光客の間を縫うように雷鳥沢へ向かう。剣御前まで一汗かいて、ガスの中剣沢へ下る。今回のテントはおニューのダンロップ6人天。10分で設営し、その途端雨が降り出す。全然雨がもらえないのは結構驚きだ。新しいテントのにおいが嬉しい。

8月7日 出発 5:00（晴れ）→平蔵谷 5:40、雪訓終了 10:20→BC 11:35

今日は雪訓デイ。平蔵谷出合のすぐ上の剣沢で雪訓を開始する。真下から見上げる源次郎尾根は思ったより迫力がある。雪が堅すぎてキックステップしづらい。ピッケルストップ、スタンディングアックスビレイ、自己脱出、搬送までやるが、新入生がいないのでどうも盛り上がらない。湊沢が文登研で習った自己脱出の新技术を披露するが、実は多少うろ覚えで混乱する。終了後平蔵谷をつめて頂上へ行く予定だったが古瀬の靴先が割れたためにあきらめ、昼の日を浴びながらサクッとBCへ戻る。靴先は管理所で借りたアロンアルファで応急処置。

8月8日 出発 4:45（曇り）→一服剣 5:25（ガス）→剣岳 7:05、発 7:50（霧雨）→BC 10:05

計画では源次郎の日だが、プレ夏の失敗を考慮して直前に別山尾根に変更した。こんな天気なので渋滞はほとんど無い。が、それが災いしたのか、途中トップの古瀬が道を失ってしまう。恥ずかしい。頂上では何も見えず、無感動の登頂となる。40分ほど粘ったがガスは晴れず、その間セーターを忘れた湊沢はずっとしゃがんで凍っていた。下山は花を見ながらひたすら歩いた。途中平蔵谷上部で滑落事故があったらしい。昼から雨でひたすらテントにこもる。

8月9日（ガス） 出発 5:20→真砂岳 7:00→雄山 8:20、発 8:45→獅子山 11:25（雨）→五色ヶ原 12:35

居心地の良かった剣沢のテン場をたって縦走に入る。この日は一日中ガスられ、おかげで大汝、鬼岳、獅子岳で雷鳥に会えた。雄山では田形以外は入山料400円を払ってピークを踏んだ。休憩所ではユーミンが流れ、一乗越までは観光客で渋滞するが、その先はほとんど人がいない。静かな山である。ザラ峠でいきなり豪雨となりずぶ濡れで五色ヶ原に着くが夕方には晴れて虹が見えた。なおこの日で野菜、肉が無くなる。この後の夕食はちらし寿司、まぜご飯の繰り返し。それでも暴動が起きない不思議なパーティーではある。

8月10日 出発 5:15（晴れ）→越中沢山 8:00（曇り）→スゴ 10:00

朝焼けの薬師を見ながら木道をぼくぼく歩く。五色ヶ原の地塘がきらきら輝き気分が良い。しかし、木道が終わると泥沼の道になり、田形が遅れがちになる。この晴天も一日もたず、台風の接近により越中沢山では三俣から烏帽子にかけ雨雲がかかって来た。スゴのテン場は狭い上に泥の海でまともな場所は4張ぶんくらいしか無い。古瀬が走って確保する。午後東の風が強まり、夜半台風通過。

8月11日（雨） 出発 7:30→薬師岳 11:20（暴風雨）→薬師峠 12:40（ガス）

計画では赤木沢出合までの予定だったので3:30に起床。雨は小降りだが風が強く出発を見合わせる。7:00頃風が弱まって来たので、とりあえず薬師峠まで行くことにして出発する。しかし、その直後、最高のタイミングで豪雨となる。皆引き返したい気分だが予備日を使いたくないのでそ

のまま前進。高度が上がるにつれ風が強まる。北薬師でツェルトを張っているパーティーがあったがとても立ち止まる気にならず、薬師の頂上も 2 分で通過。薬師岳小屋で雨は弱まり、ようやく落ち着く。テン場直前で道が沢状態になっており標識も見つからないので、ひょっとして薬師沢に入ってしまったのでは、という話が出る。でもコンパスを見ると合っているし、何より下から人が現れたので一件落着。このテン場は土質が良く、広い (50 張り以上)。テントの中で飲む紅茶がほんとにうまい。

8 月 12 日 (快晴) 出発 5:30→薬師沢小屋 7:45→赤木沢出合 9:40→中俣乗越 12:45、発 13:25→黒部五郎岳 15:20、発 16:00→黒部五郎小屋 17:00

予想通りの快晴。ルンルン気分で薬師沢小屋へ向かうが、結構道が悪くまいってしまう。薬師沢に降りたところではトップの古瀬のチョンボで迷ってしまう。さらには黒部の本流でも、へつれるところを後ろの 3 人が高巻いてしまい 30 分ほどロスしてしまう。水が多く、ゴルジュはゴーゴーとすごい勢いである。左岸の巻き道を辿って出合いに出た時は予定より 1 時間以上オーバー。でも、焦ってもつまらないだけ。天気もいいし。

この沢について言うべきことは何も無いだろう。最後、沢が感動のあまり (?) 泣いたことだけは記しておこう。黒部五郎への暑い急登をつめると、眼前に初めて槍穂高連峰が現れる。ガスの時は迷いそうなカールを下り、皆へろへろになった小屋に到着。既にテン場は一杯である。夜は天の川と流れ星を飽きるまで眺める。酒が欲しかった。

8 月 13 日 出発 6:20→三俣 8:40

この日に槍まで行くのはつらいし (弱い!)、それぞれの希望もあって、三俣にテントを張ってから自由行動とする。寺島：百名山ハンティングで鷺羽、水晶へ。古瀬：雲の平祖父公園で昼寝。田形：黒部川水源の碑を見に。沢：黒部源流を詰めて岩苔乗越、鷺羽へ。てんでんばらばらである。昼頃、黒部五郎に雲がかかったと思ったら途端にぽつぽつ降りだしたので皆慌てて帰る。

8 月 14 日 (雨) 沈殿

低気圧が日本海を通過し朝から雨。14 時頃晴れるがすぐガスる。

8 月 15 日 出発 4:50 (ガス) →双六山荘 6:50→槍ヶ岳山荘 10:00 (晴れ)

槍ヶ岳山荘のテン場が狭いので飛ばして行く。休養の効果で皆調子良い。今年の思い出 (古瀬だけの)、双六のおでんは朝早くは売ってなかったので匂いすらかげなかった。ショックでかい (古瀬だけ)。千丈沢乗越ではほぼ晴れて気持ち良い登り。例によって古瀬が先に行ってテン場を確保。沢は借りたザックがフィットせずバテ気味だが 5 分後に到着。頂上往復には 1 時間以上かかった。水 1 リットル 200 円!

8 月 16 日 (暴風雨) 殺生ヒュッテ 7:40

夜半から風が強まり、4 時に起きてみるとシュラフはぐっしょり。ポールは曲がり、フライは留めゴムが千切れている。ニューテントは見るも無残な状態で、とにかく稜線から降りようと殺生へ向かう。昨日走って登った努力は何だったのか? 殺生では風は全く無かったが稜線でも風が弱まっていたのかどうかは分からない。

8 月 17 日 (強雨) →横尾 10:20→涸沢 13:30

今日も一日雨。いいかげん腹が立ってくる。奥穂と北穂東稜 (源次郎の代案) に行くことを最優先に考えると、ここでスベアを使うより涸沢まで行っておく方が額率が高いので動くことにする。どちらにせよ明日天気が回復するとも思えず、空しさを抱いて沢状態の涸沢登山道を登る。

8 月 18 日 (晴れ) 出発 6:35→北穂東稜→北穂高岳 10:20、発 10:45→涸沢岳 12:10→奥穂高岳 12:50、発 13:15→涸沢



5 時にはガスだったのでどうするか迷ったが、待っている内に奇跡的に晴れて来たので東稜に向かう。昨年も来たところだが、昨年より下から雪渓とガレ場をトラバースし、岩裾伝いにルンゼに入る。コルへの懸垂の前に、3mの登りでザイルを出す。昨年はサクッと通過したはずだったのに記憶に無いところだった。結局問題なく頂上に着く。涸沢も「もっと厳しいかと思ってた」とのたまに、快適な稜線歩きを楽しんだ。

北穂から涸沢岳の間はこのところの雨のせい、ほとんど誰もいない。鎖のオンパレードで、逆コース、重荷での通過は結構厳しそう。快晴の奥穂で景色を存分に楽しみ、奇妙にガラんとした穂高山荘からは自由に降りる。そのせいで(?) 4人中3人がテントを前に迷ってしまい、涸沢でのヤブこぎという得がたい経験をした者もいた。

8月19日 出発 7:15 (雨) →横尾 9:15 (曇り) →上高地 11:50

今合宿のフィナーレにふさわしく雨の中での下山。松本では一転して目もくらむような日ざしが照り付けていた。今年初めて聞くセミの声が新鮮に聞こえる。最後はシェイキーの食べ放題でしめる(文責 古瀬)。

## 9. 個人山行 (利尻山) 9月4日 参加・古瀬

2週間の北海道チャリ旅行のフィナーレとして選んだのがこの利尻山。予定では東大雪二ペソツ山にも登ろうと思っていたが、諸事情によりカットしてしまった。来年は必ずリターンマッチを果たします。

9月4日(晴れ) 鴛泊 5:00→利尻山 9:20、登 9:45→鴛泊 13:00

鴛泊F Tの前の公園にテントを張ったので海拔0mからの登りとなる。防波堤の上に日が昇るのを見て出発。鬱蒼とした森が甘露泉の先、4合目あたりまで続き、その上は樺の明るい林になり、時折見える礼文の眺めが良い。

しまりすが足元でちょろちょろする。長官山まで登りつめると、形の良い利尻富士の頂上が久々に望める。雪渓が2ヶ所残っている。9合目から道は極端に悪くなる。特に下るときに時間がかかる。山頂では鮮やかさを失った高山植物がもの悲しげに揺れていた(文責 古瀬)。

## 10. 笹穴沢(谷川) 9月12日 参加・古瀬、田形、古田(部員外)

金山沢出合 8:30→30m滝 9:45→25m滝 10:15→平標山 14:10→徒渉点 16:10→土樽駅 18:00

前日の夜に後閑駅に入り、この日の朝ゲート前までタクシーで入る。出合まで1時間強かかる。遡行開始するがあまり楽しい沢ではない。高巻きの時も、谷川特有のスラブ状の草つきを登る。ザイルを使用した所もあった。しかし、最後は草原状の源頭に出て、晴れていれば、もっと良かったのと思う。平標山の頂上には沢山のハイカーがいた。ここからの平標新道はあまり整備された道ではなくイライラさせられながら下り、土樽駅に着いたのは東京行き最終列車の寸前だった。全体としてはあまりお勧めできない沢である。

## 11. 下ノ沢(南会津・桧枝岐川) 9月28日 参加・古瀬、田形

遡行開始 6:20→二俣 8:00→最後の二俣 10:35→駒ノ小屋 11:30→会津駒往復、出発 13:05→桧枝岐 14:15

前夜に桧枝岐に入り、小学校の中にツェルトを張る。下がコンクリだったので朝起きると体全体が冷え切っていた。しかし、天気はよさそうである。会津駒への登山道入り口を左に見て、しばらく林道を登ってから沢に下りる。龍門ノ滝は巻く。地形図の大瀑は布15m滝のことであろうがたいしたことはない。第2,3のゴルジュも快適に通過する。天気がいいので、源頭の草原の雰囲気は最高。駒ヶ岳付近には立派な木道があり、湿原保護がされている。

頂上で展望を楽しんだ後下山開始。今思えば中門岳往復もすべきであった。春には山スキーに良さそうな稜線である。平標新道とは違って、よく整備された登山道をおりて、桧枝岐の集落に着く。とても熱い露天風呂に入ったり、桧枝岐特産のそばや、はっとうを食べてバスを待つ。この沢は3級であるが容易でかつ楽しめ、会津駒も良い。アフター登山には温泉もあり、秋の日のレクには最適の沢である。